

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆりかごの理念【お年寄りを敬う】 経営理念【地域に密着した、社会に信頼される会社を目指す】、職員一人一人が誇りを持てる仕事をする】 経営理念・各部署毎の理念を職員全員が周知し実践できる様に努力している。	法人理念とホーム理念については来訪者の目にふれ易い所に掲示している。職員に対しては介護記録用紙に理念を張り付けると共に休憩室に掲示し、絶えず目にふれ意識をして支援に取り組むようにしている。また、家族に対しては理念に沿ったホームでの生活の送り方について話している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナ対策のため、運営推進会議は書面にて報告。 地域交流会・行事は中止とした。	自治会費を納め地域の一員として活動している。冬場、近隣のお年寄り住宅の雪かきの応援を行い感謝されている。開設以来、例年、地域のいきいきサロンへの参加、秋祭りの獅子舞の来訪、小学生、専門学校生との交流、各種ボランティアの来訪等が行われていたが、全ての活動が新型コロナの影響を受け中止の状態に追い込まれ残念な状況が続いている。終息後にはまた積極的な活動を再開する予定であるという。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、認知症の理解・支援と啓発活動に取り組んでいる。「困った時はいつでもゆりかごへ！」という位置付けになれる様努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、デイサービスと共に会議を開催している。行政・地域住民・ご家族と活発な意見交換を行い、サービスに反映できる様努めている。今年はコロナ対策のため、運営推進会議は書面にて報告。	区長、民生委員、老人クラブ会長、秋津小学校校長、市高齢者介護保険係、地域包括支援センター職員、いきいきサロン世話役、ホーム関係者が出席し、併設デイサービスと合同で2ヶ月に1回開催している。12月には運営推進会議を兼ね餅つきを行い近所に配っている。現在は新型コロナの影響で書面での開催となり、利用者状況やスタッフ状況の報告、身体拘束適正化委員会としての報告等を行い、意見・要望書を添付しメンバーに報告し、FAXや電話などでご意見を頂くようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年はコロナ対策のため、研修会はほぼ中止となる。会議などはリモート会議となり参加をする。	市高齢者介護保険係とは新型コロナ対策について相談している。毎月開催されている地域ケア会議と会議後の各種勉強会は新型コロナの影響でリモートでの開催となっているが、ケアマネジャーが参加し、ホーム内にフィードバックし支援に役立っている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し実施され職員が対応している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会は毎年行っており、入退院を繰り返しやむを得ず身体拘束をしなければいけない利用者様については、毎月職員間で日々検討を重ね早期に解除する様取り組んでいる。	基本的に拘束のないケアに取り組んでいる。開設以来初めて、昨年、転倒による骨折を重ね入退院を繰り返す状況となった方がおり、家族と相談の上柵を使用したケースがあるが、職員間で日々状況を記録し検討を重ね早期の解除に繋がったという。転倒リスクが危惧される方がおり、家族と相談しセンサー使用している方が数名、センサーマット使用の方も若干名となっている。年2回行われる法人内の勉強会に合わせ、運営推進会議の席上行われる身体拘束等適正化委員会等で拘束に対する理解を深め支援に取り組んでいる。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会へ参加し、一人一人が理解を深める様努めている。利用者様の権利を重んじ、侵害についても意識を高めながら支援を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入所されている利用者様で成年後見人制度を考えているご家族はおられないが、必要に応じ適切な助言ができる様、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約に関しては、利用者様やご家族に書面・口頭にて責任者が詳細に説明している。また質問・疑問を尋ね、納得いくまで説明し、理解を得ながら進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に関しては、日常生活の中でのつぶやき・訴えに耳を傾け対応できる様にしている。ご家族には面会ノート・家族会・新聞等その都度、文面意見交換の場で反映する様に努めている。	三分の二の利用者が意思表示の難しい状況であるが、家族から聞いた過去の生活歴や日々の生活の中での表情より思いを受け止めるよう心掛けている。現在、家族の面会は自粛状況が続いているが、窓越し面会のやり方を工夫をし再開する予定である。また、奇数月に行われている誕生日会に合わせた家族会も新型コロナの影響で開催できない状況が続いている。そのような中、利用者の様子が写真入りで掲載された「グループホーム新聞」を毎月家族に届け、合わせて日々の状況は電話で話すようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のスタッフ会議・各部署の責任者会議（定例会議）、毎日のミーティングで職員からの意見を反映し、解決できる様に努めている。	月1回スタッフ会議を開催し、会社からの業務連絡、行事予定、カンファレンス、各種勉強会、意見交換等を行い、支援の質の向上に繋げている。職員は年1回、年度当初に目標を立て、その後、自己評価を行い、上司のチェック後、会長、専務による個人面談も行われモラルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年・又は適宜個人面談を行い、業務に関する事は職員全員に周知・徹底させ、職員同士情報共有が出来る様努めています。又、陰口のない働きやすい職場を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修には積極的に参加しています。又、地域ケア会議後の勉強会等にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議等で、他事業所の職員と情報交換・情報共有に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族とも密に連絡を取り、利用者様の要望や話の傾聴をしっかりと行い、利用者様との関係作りを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ対策のため面会を制限しており、電話にて現在の状況を伝え、要望等の聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設で満足して頂けるか、利用者様・ご家族のニーズに合わせて、個々に必要なサービスは何か考え、支援の提案・提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりとしっかりと向き合い、話の傾聴をし、現在に至るまでの生活歴を把握・理解し「その人がその人らしく」生活できる様心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意見・要望などをしっかりと聞き取り、利用者様とご家族、職員とご家族間のコミュニケーションと繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様・ご家族からのお話を通じ、可能な限り馴染みの場所・馴染みの人との関係が途切れないよう努めている。お手紙等も希望があれば投函し、年賀状も毎年出している。	通常であれば、友人、知人の面会があるが、現在は新型コロナの影響で自粛状態が続いている。そのような中、家族や親戚と葉書のやり取りをされている利用者がいる。また、近所の方と電話のやり取りをされている方も若干名いる。年末にはぬり絵等で工夫し、利用者一人ひとりの年賀状を作成し家族に発送する予定であるという。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の様子、利用者様同士の会話等から関係を把握し、利用者様間のコミュニケーションが図れるよう、支援に努めている。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	担当者が利用者様・ご家族と密に連絡をとり、相談・アドバイス等情報提供が行える体制を整える様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様・ご家族とこまめに会話をし、希望や意向の周知に努めています。会議では職員同士が情報交換を行い、ケアの質の向上に努めている。	家族会の時に食事アンケートを取り、利用者の希望を取りまとめ希望に沿えるようにしている。また、手先を使う作業として「ぬり絵」「折り紙」「洗濯物たたみ」等を利用者に提案し、好みのことに取り組めるよう働きかけている。日々の「つぶやき」や「訴え」等についても支援ノートに纏め、職員間で情報を共有し利用者の意向に沿うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・以前使用していた施設・病院等からの情報提供を书面化。個人ファイルに保存し、職員全員が目を通せるようにしている。会議やミーティング時に申し送りノートを活用し、情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りで、日々の心身状態や身体状態の報告を受け、会議やミーティング時に申し送りノートを活用し、情報の共有・把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の意思をお聞きし、会議やミーティングで職員間で意見交換を行い、より良い計画作成を心掛けている。ご家族に意見をお聞きし細かく分析をし、作成ファイルに添付し周知に努めている。	職員は1～2名の利用者を担当し、居室の整理整頓、介護計画に沿った個別援助計画を作成しモニタリングも行っている。家族の希望は面会時と電話で聞き、ケアマネジャーと情報を共有し介護計画の作成を行っている。計画の見直しは基本的には3～6ヶ月で行い、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個別記録・ミーティングを活用し、話し合いを行い、具体的な情報の共有に努め、会議で対応方法・プランの見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設の特性を生かし、他部署の意見を取り入れながら、利用者様・ご家族のニーズに可能な限り対応し、より良い支援を心掛けている。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ、地域との繋がりを出るだけ活用させてもらえる様心掛けて支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの健康状態を把握し、利用者様からの要望・健康状態の変化等訴えがあった時は、話し合いや相談ができる様、納得のいく医療が提供できる様努めている。	利用契約時に医療機関に対する希望を聞いている。現在はホーム協力医の月1回の往診対応の方が三分の二強、入所前からのかかりつけ医利用の方が若干名という状況である。また、週1回協力医の看護師の来訪があり、利用者の健康管理に合わせ医師との連携を取り、24時間の対応も可能で、万全な医療体制となっている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護時、日々の健康状態の情報提供を行い、適切な治療・処置方法等指導を受け、的確な対応ができる様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期の退院に向け、ケアマネジャーの指示の下、ご家族と情報共有できる様に心掛けている。入院中も、病院関係者と連絡をとり情報提供を受け、退院後も安心して生活できる様に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について職員も勉強会を重ね、利用者様やご家族の希望に対し、出来る限り添える様に主治医・看護師・ご家族と充分に検討し支援に取り組んでいる。	重度化、終末期に対する指針があり利用契約時に説明し同意を頂いている。食事が取れなくなり、また、状況に変化が見られ、終末期に到った時には家族の意向を再度確認の上、医師と訪問看護師の指示の下、改めて家族より看取り同意書にサインを頂き支援に取り組んでいる。この一年以内に1名の看取りを行い、家族より感謝の言葉を頂いている。また、年1回、法人の専務を講師に終末期についての勉強会を行い、看取りに対する心構えを学び看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用法を含め救急・救命講習を社内研修にて行い、ほぼ職員全員が参加・習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡訓練、夜間・日中想定避難訓練を定期的実施し、災害時に備えている。又、近隣・地域住民の方々にも参加を呼びかけ協力頂いている。	年2回春と秋に消防署員、区長、民生委員、近隣住民の皆さん数名の参加の下、防災訓練を実施している。出火元を特定して駐車場まで移動しての訓練を行い、避難に要した時間も計っている。合わせて水消火器を使つての消火訓練とAED使用研修を行い、緊急への備えとしている。また、備蓄については「水」「レトルト食品」が準備されている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で尊重と尊厳、その人の人格等に配慮している。慎重な言葉遣い・心遣いをしてケアを行っている。	利用者一人ひとりのプライバシーに関する個人情報や写真の掲載等については特に気をつけるよう徹底している。また、言葉遣いに気配りし、敬語等も交えながら気持ち良く過ごしていただくよう心掛けている。呼び方は「苗字」「名前」「旧姓」など、利用者の希望に合わせお呼びするようにしている。職員は接遇、権利擁護の社内研修会と合わせ保健センターで行われる勉強会にも参加し意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや会話内容を常に意識し、思いや要望・希望等を選択でき、職員へ言いやすい状況が作れる様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人らしい暮らし」に基づき、安定した支援を心掛けている。本人のペースを尊重し、個人支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感等に配慮し、利用者様が選択できる様に気遣い、ご家族にも協力して頂き支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はメニューの説明をし、食事の提供方法など、利用者様にあった食事形態を随時検討している。利用者様と共に、食事の準備・後片付けなど、声掛けをしながら協力して行っている。	全介助の利用者が若干名おり、他の方は自力で食事が出来る状況である。野菜は年間を通してホームの畑で栽培された新鮮なものを使用している。献立は専務、調理職員2名、デイサービス給食担当、グループホーム給食担当の間で月1回給食会議を行い検討し、デイサービスのキッチンで「副菜」を調理し、ホームのキッチンでは「ご飯」「汁物」「おやつ」を作り提供している。お彼岸には「おはぎ」、大晦日には「お寿司」、飲める方には「お酒」を少々お出しし、楽しいひと時を過ごしている。また、敬老会、文化の日等の祝日にも季節に合わせたものを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日その日の食事量・水分量など日誌に記入し、利用者様個々の健康状態を把握するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後義歯は洗浄し、夕食後は洗浄剤を使用し、汚れ・臭いが生じない様に努めている。自菌のある利用者様は、仕上げ磨きは職員が行う。利用者様の状態により、舌ブラシ使用・口拭を行っている。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者様の排泄間隔でのトイレ誘導に務め、夜間も声がけでトイレ介助をし、むやみにオムツ対応をしない様に務めている。終日オムツ対応の利用者様は定時でのパット交換を行っている。	現在自立の方と一部介助の方がそれぞれ半数弱で、共にリハビリパンツとパットを使用している。若干名の方は全介助でおむつを用いている。排泄チェック表を使いパターンを把握し個々の状況に合わせトイレ誘導を行っている。排便促進を図るべく食事に野菜を多く使い、食事やおやつ時にお茶、コーヒーなどを中心に一日の水分摂取目標を1,000ccとし取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔・排便状態の確認を行い、屯用での下剤の内服等を記録表に記入している。水分への声がけ、下剤を使用する時は医師・看護師の指導の下、個々の状態に合わせて内服している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴を行っている。体調等により入浴できない時は、別の日の入浴・清拭で対応している。季節感を楽しんでいただける様に、ゆず湯・しょうぶ湯等も行っている。	見守りで自立の方が数名、一部介助の方が半数強、シャワー浴使用の方が若干名という状況である。入浴拒否の方もなく、週2回の入浴を行っている。入浴剤を使用したり、「菖蒲湯」「ゆず湯」「リンゴ湯」等の季節のお風呂を楽しんだりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個々の就寝時間に合わせて居室誘導をしている。眠剤を使用する時は医師・看護師の指導の下、内服時間の確認を行っている。夜間不安等で起きてしまった時は、話の傾聴を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用・副作用を把握し、服用する際は利用者様の名前・日付の確認を行っている。きちんと口に入れたか・飲んだかの確認も行っている。副作用が生じたときは、医師・薬剤師に相談、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力を把握し、意欲的にできる作業の提供、個々の嗜好・楽しみを把握し提供している。日中は外気浴・お散歩等で気分転換していただける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナ対策の為、外出支援はほとんど行っていない。	外出時、自力歩行の方は若干名で、歩行器使用の方が数名、車いす使用の方が半数強という状況である。日常的にはホームの周りを散歩しながら畑を眺めたり、プランターに花の苗を植え楽しんでいる。年間の行事計画があり、春の花見、初夏のバラ公園見学、秋の紅葉見物まで計画されているが、今年は新型コロナウイルスの影響で難しい状況が続いている。そのような中、少人数に分かれドライブの計画を立て実施する予定であるという。	

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者様については、ご家族の了承のもと持っていて頂いている。又、買い物等で金銭を使用する際には、自身で支払いができる様、必要に応じ見守り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ、代筆・代読で対応している。ご家族からの電話は、要望があれば利用者様本人とお話して頂き、又、利用者様が電話をかけたいと言われた時には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール等の共有スペースは、季節に合った飾り付け、季節の花を飾り、季節を感じられるようにしている。日当たりによりレースカーテンを使用、ベッドの配置も各居室で変更し対応している。冬は床暖房を使用しているが、利用者様により電気毛布・湯たんぽを使用している。	一日の大半を過ごすホール兼食堂はこじんまりとした広さで、柔らかな表情を浮かべ寛いでいる利用者を見させていただき温もりが感じられた。ホール一角には利用者が心をこめて作った「折り紙」や「はり絵」を組み合わせたクリスマスの飾り付けが施され、季節感が感じられた。廊下の壁には外出時の写真が貼られ、活動の様子が見て取れる。空調はエアコンと床暖房で快適に制御されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合いそうな方、同じ状態の方、同じ作業ができそうな方と過ごして頂ける様、座席の配置に配慮している。テレビ鑑賞を好まれる方は、テレビの見やすい位置に座席を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具・衣類等使い慣れた物を使用して頂き心地よく安心して過ごして頂けるように支援している。又、自身で作成した物・塗り絵・写真等はコルクボードを用意し、いつでも飾れるようにしている。	入り口に花の名前とのれんが掛けられた居室は整理整頓が行き届き、綺麗な中で日々の生活を送っている。会長手造りの大きなクローゼットと整理ダンスが完備され、暮らし易い居室となっている。また、仏壇、位牌等が置かれている居室や設置されたコルクボードに家族の写真、家族よりの手紙、自分の作品等を飾った居室などがあり、一人ひとりの自由なくつろぎの場となっていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態を考慮し、それぞれの方に合わせた居室の位置にしている。又必要に応じ居室変更を行っている。各居室に名前を付け、必要に応じ利用者様の氏名を貼る等、自分の居室が分かるように工夫している。		